

きじむんの どう〜ちゃんばにい〜 第9回

きじむんと愉快?な仲間達



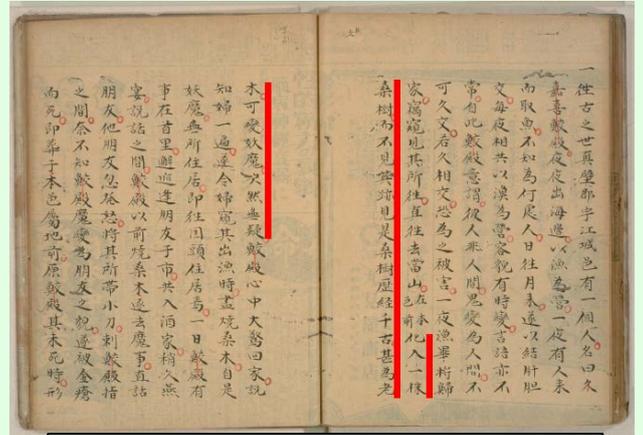
キーワード：キジムナー ブナガヤ

セーマ アカガンター ケンモン



はいさーい! きじむんやいびーん! 今回は僕と僕の仲間達を紹介するよ。

まずは僕、「キジムナー」についてお話するね。「キジムナー」は沖縄諸島の妖怪。樹木の精霊ともいわれているよ。ちなみにきじむんは千原池にあるガジュマル生まれだよ。キジムナーは一般的に小学校低学年くらいの身長で、赤い顔にボサボサの赤い髪をしているとされているよ。魚の目玉、特に左目が好物。海で釣れた左目のない魚はキジムナーの食べ残しらしいよ。苦手なものは蛸とおなら。人間と友達になってその人に富をもたらすこともあれば、いたずらをしたり、怒らせると残忍な事をすることもあるんだって。沖縄にはキジムナーに関する民話や伝説がたくさんあって、一番古い記録は、1745年に編纂された『遺老説伝』のなかにあるよ。(赤字部分に、「老木となった桑樹が妖魔になったに違いない」と書かれている)



伊波普猷文庫No.14 『遺老説伝 卷三』24ページ
琉球・沖縄貴重資料デジタルアーカイブより

キジムナーは地域によってその名前や特徴が違ったりしていて、それらはキジムナーと同じと見なされたり、仲間だとされたりするよ。その一部を紹介するね。

「ブナガヤ」=主に北部に伝わる。子どもくらいの背丈で体は赤い。人間とはあまりかわりを持ちたがらない。火(ブナガヤビー)を使い、ブナガヤに害をなすとブナガヤビーで焼かれるという。喜如嘉には戦後まで旧暦8月に山からブナガヤ達がブナガヤビーを持って一列になって村に降りてくるのを見る「アラミ」という行事があった。

「セーマ」=古宇利島および沖縄本島中北部に伝わる。赤ちゃんのように小さく、赤毛で赤い肌をしている。セーマのいる木の下には食べたカタツムリの殻が落ちているという。オスとメスがいる。

「アカガンター」=沖縄全島に伝わる。子ども程の背丈、全身真っ赤。家の中に現れ、枕をひっくり返したり、金縛りにあわせたりする。アカガンターが出る家は栄えるとも、火事が出るともいわれる。

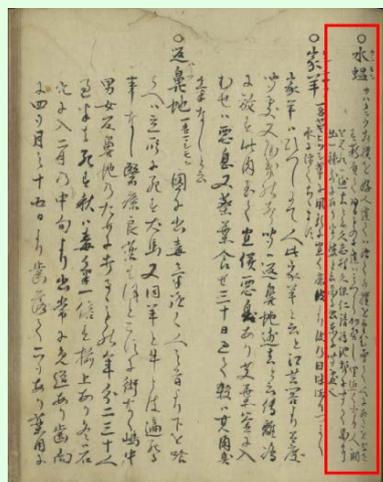
「ケンモン(ケンモン)」=奄美に伝わる。ガジュマルやアコウの木などの精霊で、子どものような身長で手足がとても長い。赤い顔に赤い髪、河童みたいに頭に皿があり、皿が乾くと力がぬける。すもうが大好きで、人を見かけると人間にばけて相撲を挑む。島の人を迷わして山に引き込むことがある。

君はキジムナーに遭遇したという話を聞いたことはあるかな? 図書館にはキジムナーに出会ったという体験談や昔話が載っている本があるから興味のある人はぜひ読んでみてね。あと『沖縄文献情報データベース(BIDOM)』でもキジムナーや妖怪に関する資料が探せるから検索してみてね ⇒ [BIDOMはココ!](#)
キジムナーに興味を持ってくれる人が増えると僕達はとてもうれしいな。(AH)



【参考文献】

- 沖縄タイムス社 『沖縄大百科事典』、1983年
- 島袋盛敏 『球場外巻遺老説伝』、学芸社、1935年
- 小原猛・三木静 『琉球妖怪大図鑑 上・下』、琉球新報社、2015年
- 名越護 『南島雑話の世界：名越左源太の見た幕末の奄美』、南日本新聞社、2002年



版者・宝玲文庫HW655 『南島雑記 全』61ページ
琉球・沖縄貴重資料デジタルアーカイブより